



大阪府民の森の誕生物語

NPO法人日本パークレンジャー協会

1. 大阪府民の森とは?

大阪の府政100周年記念事業として
金剛生駒紀泉国定公園内に作られた
8つの自然公園(園地)

2003年(H15年)ほりご園地(泉南市)追加



交野市
ほしだ園地 (交野市)
「星のブランコ」で有名。スリル満点の空中散歩のハイキングや、クライミングウォールに挑戦するなどアクティブに自然を楽しむことができます。

交野市
くろんど園地 (交野市)
野外料理ができる設備があり、春にはミズバショウやカタクリが咲く森がある静かな景観の園地です。園内には変化に富んだハイキングコースがあり、四季折々の自然が楽しめます。

四条畷市
むろいけ園地 (四条畷市)
水辺自然園では2つの遊歩道が整備され、誰でも安心して森林浴が楽しめます。「森の宝島」はアスレチック遊具が豊富で子どもたちに大人気のエリアです。

千早赤坂村
ちはや園地 (千早赤坂村)
金剛山城にある園地です。天然のブナが見られ、春は色々な草花、夏は避暑、秋は紅葉、冬は雪と樹氷が楽しめます。キャンプ場や星と自然のミュージアムがあり星空観察もできます。

東大阪市・八尾市
中部園地 (くさか・ぬかた・なるかわ・みずのみ園地からなる) (東大阪市、八尾市)
くさか、ぬかた、なるかわ、みずのみ園地からなる生駒山腹にある自然公園です。ツツジ園やアジサイ園があり、らくらく登山道では大阪平野の大パノラマなど雄大な景色を楽しむことができます。

大阪府庁の設置:明治元年(1868年)、100周年: 昭和42年(1967年)

2. 戦前・戦後の生駒山系

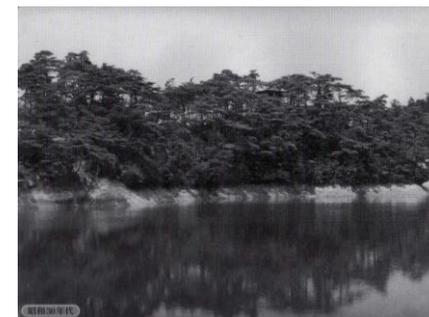
戦前(1945年まで) -- S20年まで 薪や柴の採取ではげ山だった



戦後(1945～1965年) -- S20年～40年 植林で緑を取り戻す



黒い点は人が植林しているところ



3. 生駒の山の荒廃と保護

1965年 (S40年)以降 生駒の山の自然破壊が起こる

日本の高度経済成長期に都市建設・港湾埋め立てで生駒の土砂採取が始まる

生駒山系のあちこちで赤茶けた山肌が露出

頻繁に山火事も発生 (S43, 45年には自衛隊が出動し100haが消失)

1967年(S42年)当時大阪府農林部:大阪のシンボル生駒山を守りたい

生駒の山麓を600ha(100ha 6ヶ所)を府が買収して自然公園にして守りたい

しかし当時大阪府にはお金がなかった

そこで国から60億円を借金して土地の購入費に充てる構想をした

企画書として府民の森構想絵巻「この山の緑を守ろう」を作り

国を説得してみごとに成功した

1967年(S42年)～用地買収・整備を開始

1978年(S53年)～府民に園地が順次解放されていった

4.府民の森構想絵巻 「この山のみどりを守ろう」



府民の森構想絵巻より

大阪平野が海であったころ、我々の祖先が築いた古墳群、今に残る伝説や詩歌
府民の心のふるさと生駒の山々は都市開発の勢いで年とともに土と緑を失っています

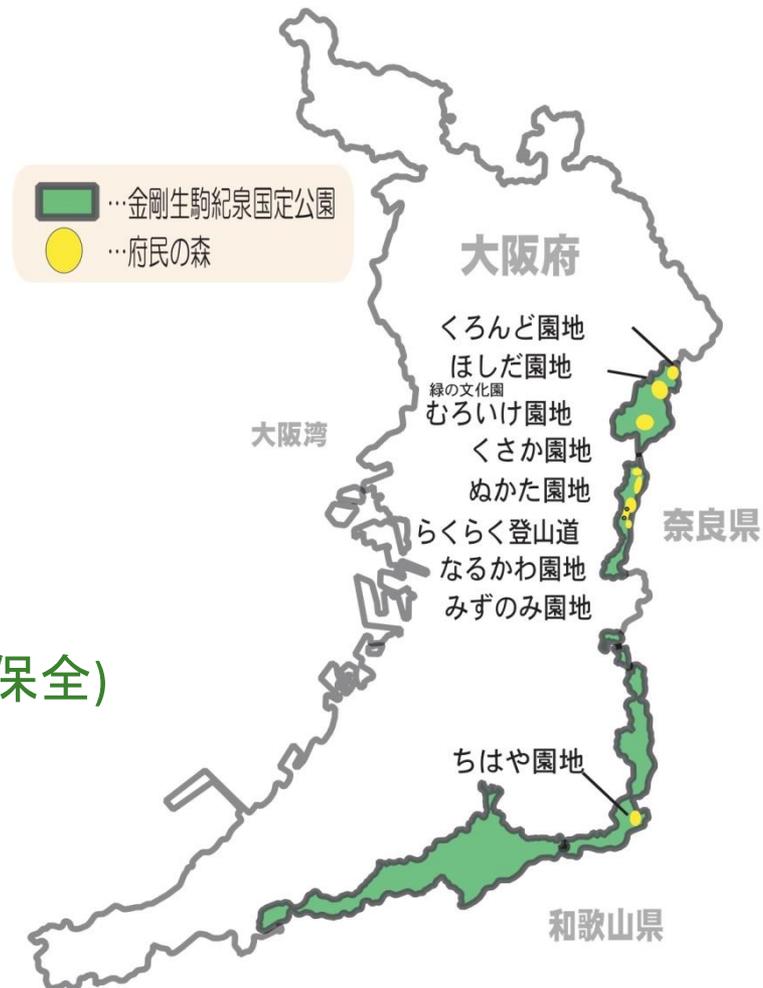
生駒の山は土砂降りの雨に耐え洪水を食い止め人々の暮らしを守ってきました
またハイキングや行楽地として人々の疲れをいやしてきました

その山が今むしばまれつつあります。それは静かに牙をとぐ自然の姿でもあります

ここにつくる府民の森は自然の草花や色々な樹木を植え、季節豊かにして
色々な生きものがすむ、いにしえの人たちが安らかに生駒の山に親しんだ
ような美しい山に、そして府民を守る頼もしい山にしたい
こんな願いを込めて府民の森は作られいつまでも保存されるのです

5. 府民の森の役立ち

- 気候の緩和・水源確保・災害防止
- 人が自然を楽しみ触れ合う場
- 人が都市を離れた癒しの場
- 色々な生物がいる場所(生物多様性保全)
- 自然の大切さを学ぶ環境教育の場



来園者:年間150万人を超える(2018年時点)